

関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について  
病虫害発生予察注意報第1号を送付します。

平成19年度病虫害発生予察注意報第1号

平成19年10月2日  
高知県病虫害防除所

## 病虫害名 ハスモンヨトウ

1. 対象作物 露地野菜、ダイズ、施設野菜、花き類、飼料作物など
2. 発生地域 県内全域
3. 発生時期 9月中旬以降
4. 発生程度 多
5. 注意報発令の根拠
  - 1) 9月下旬の県内のサトイモほ場での卵塊調査では、昨年よりかなり多く、平年の約2倍の卵塊数となっている(表1)。
  - 2) 南国市廿枝のサトイモほ場における卵塊数調査(県農業技術センター昆虫担当調べ)でも、9月に入り漸増している(図1)。
  - 3) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は、地域によってばらつきがあるものの、県東部から中央部にかけて多くなっている(図2)。
  - 4) 9月4～5半旬の巡回調査では、ピーマンでの被害面積、被害株率とも高くなっており、ダイズでもほとんどのほ場で被害が見られる(表2)。
  - 5) 向こう一ヶ月の気象予報では気温は高いと予想されており、本虫は今後も高密度で推移すると思われる。
6. 防除対策
  - 1) 薬剤防除は県病虫害防除指針に準じて実施するが、1回の薬剤散布で効果が十分でない時は、同一薬剤の連用を避けながら、約7日間隔で数回散布する。
  - 2) 老齢幼虫になると薬剤の防除効果が低下するので、若齢幼虫期に薬剤散布を行う。また、産み付けられた卵塊の除去や老齢幼虫の捕殺に努める。
  - 3) 黄色防蛾灯の設置による飛来防止や施設栽培ではハウスサイドや天窓への防虫ネット被覆により成虫の侵入を防止する。

表1：各地区のハスモンヨトウ卵塊調査結果(サトイモ50株あたり)

調査地点	調査年 平均調査月日			本年(2007年)			昨年(2006年)			平年		
	8/7	8/22	9/22	8/4	8/22	9/24	8/1	8/27	9/20			
東部	7	12	12	11	11	12	9	11	8			
中央部	0	2	8	2	1	2	3	7	7			
中西部	0	6	18	4	4	2	2	8	7			
西部	0	10	9	5	4	1	3	11	10			
平均	1.7	7.3	13.2	5.8	5.2	4.3	4.3	8.8	7.7			

図1: サイモにおけるハスモンヨトウ卵塊数(南国市廿枝、農業技術センター内)

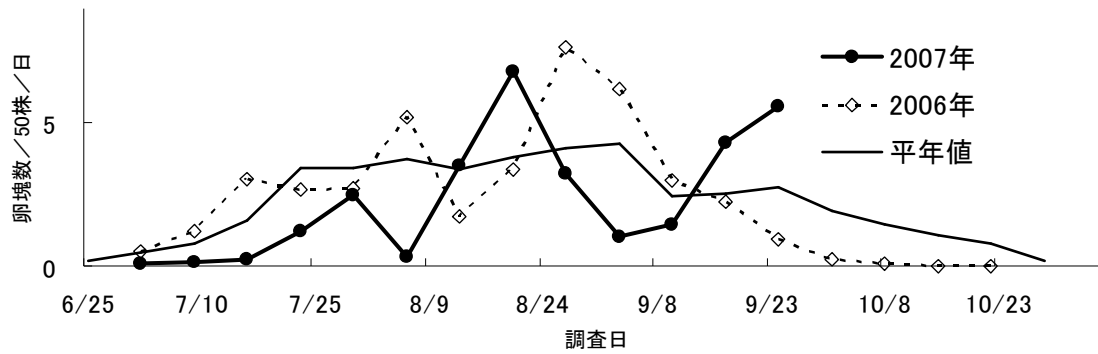


図2: 各地区のフェロモントラップにおけるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺数(9月4半旬まで)

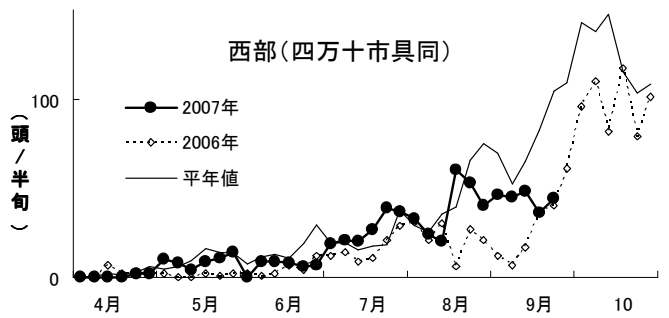
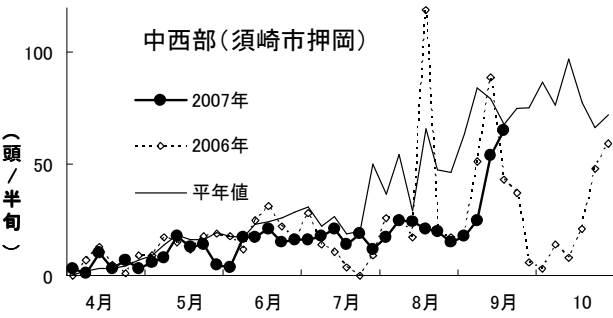
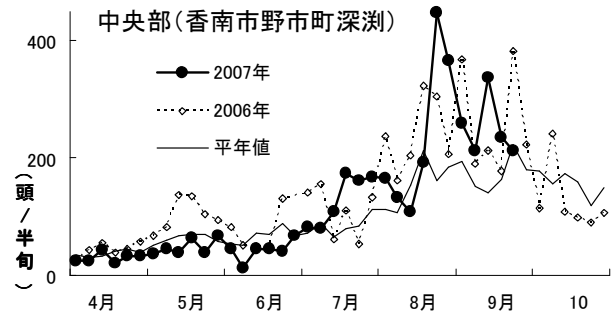
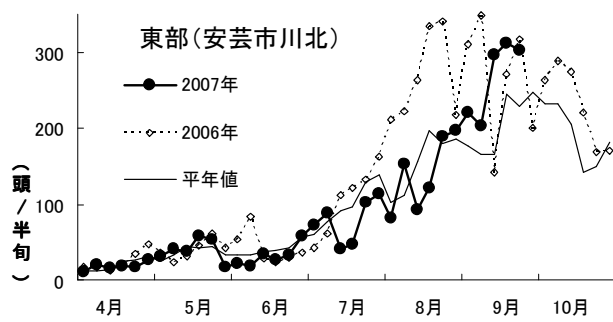


表2: 地区・作目別のハスモンヨトウ被害面積調査結果

調査地点	作目	被害面積 ha (平均被害株率%)					
		促成ナス <sup>※1</sup>		促成ピーマン <sup>※2</sup>		ダイズ <sup>※3</sup>	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
東部		167 (9.3)	171 (7.7)	21 (6.0)	10 (1.9)		
中央部		32 (9.7)	30 (12.4)	66 (11.0)	6 (0.5)	203	201
中西部		—	—	8 (1.2)	1 (0.0)		
合計(平均)		199 (9.5)	201 (10.1)	94 (6.1)	16 (0.8)	203	201

※1 促成ナス栽培面積

東部 286ha 中央部 46ha

※2 促成ピーマン栽培面積

東部 28ha 中央部 84ha 中西部 19ha

※3 ダイズ栽培面積

合計 203ha